

看護と文献

病院図書室に期待すること

—臨床ナースの立場から—

寺田 美和子

1. はじめに

臨床で働くナースがどのような情報を必要とし、病院図書室に何を期待しているのかについて書いて欲しいと原稿を依頼された。卒業すぐに重症かつ救急受け入れを兼ねた病棟に配属されたこともあり図書室にはよく通っていた。しかし、文献の大切さ、その効果的な探し方について知ったのは卒業8年目に日本看護協会の研修「ICUの看護」の中で「情報検索の実際」という講義を受けてからである。そこで、この受講以後の私の文献収集のしかた、司書への期待、それと臨床のナースが必要とする情報について以下述べてみたい。

2. 図書、雑誌の理解

私が図書室や図書・雑誌から得られる情報を効果的に使えるようになったのは前述した研修に参加してからである。この講義の中で図書と雑誌の利用のしかたの違い、二次資料の利用のしかた、引用・参考文献について学んだ。以下その内容について簡単に紹介する。

(1) 図書と雑誌の違い

学術情報の流れは図1の通りである。

各病院の看護研究発表会などで発表され優秀とみなされたものが学会で発表される。その中のより優秀な発表や直接雑誌に投稿され認められたものが雑誌に掲載される。それらの雑誌掲載情報が集約され、その専門分野において誰もが認めるスタンダードな知識とな

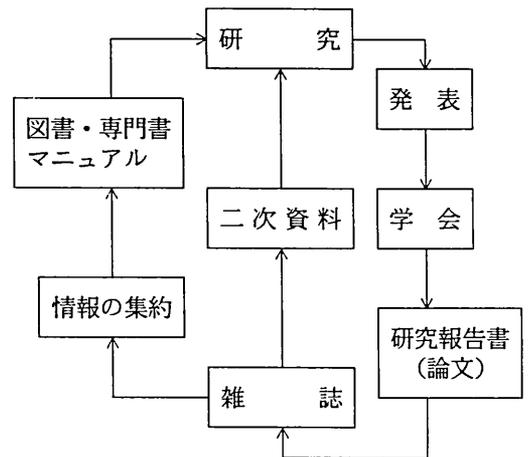


図1：学術情報の流れ

ったものが図書として発行される。その結果、雑誌からは新しい情報、図書からは専門分野のスタンダードな知識が得られるようになる。

(2) 二次資料

二次資料は資料を探すための資料である。学術雑誌に掲載されている論文や記事について、そのアウトラインがわかるようにエッセンスを取り出し、キーワードや著者などのいろいろな手がかりからもとの文献が探し出せるようにまとめられた資料である⁽¹⁾。

(3) 引用・参考文献

論文の末尾に記載されている引用・参考文献はその文献を読んだ人がより深く学びたいと思ったときに利用する。知識は与えられるだけでなく、自主的により学習を深める事が大切である。これらの引用・参考文献は著作

てらだ みわこ：淀川キリスト教病院
透折室婦長代行

権上も記載しておく必要がある。

3. 文献の収集

現在、私は文献収集をする時に(1)二次資料を用いる、(2)新着雑誌の目次コピーを見る、(3)ブラウジング、の3つの方法を用いている。それぞれについて以下に記載する。

(1)二次資料を用いる方法(件名索引と人名索引)

研修を受けてからは雑誌や二次資料に親しみが湧きこれらをよく利用するようになった。二次資料には件名索引と人名索引があるが、私がこれまで利用してきたのは主に件名索引である。たとえば、ICUにいた頃はわからないことや新しい治療法などを二次資料の件名索引で探し、院内にある文献は自分でコピーし、院内にないものは司書を通して入手していた。

今まで人名索引については利用したことがなかったが、今夏大阪府看護職員洋上研修で日本赤十字看護大学の稲岡文昭教授の講演を聴く機会があった。稲岡教授については何の予備知識もなく受講したが、人名索引で稲岡教授の書かれた文献を探し、前もって読んでおけばより理解が深まったのではないかと思う。以前に大阪府立看護大学の公開講座で「家族看護学」を受講したが、その時は偶然講師の先生の文献を読んでいたため講演がたいへん理解しやすかった。

(2)新着雑誌の目次コピーをみる方法

私が利用している二次資料は日本看護協会看護研修センター図書館発行の「最新看護索引」である。たいへん便利で重宝しているが、雑誌が発行後記事が索引されて1冊にまとめられるまで約1年のタイムラグがある。そこで、タイムリナーな情報入手の方法として私が利用しているのが、職員更衣室前に掲示されている新着雑誌の目次コピーである。勤務の行き帰りに眺めて情報の入手に努めている。ICUにいた頃、はじめて人工心肺が使われた時もちょうど更衣室前のコピーで「オペネーシング」の人工心肺の特集を見つけ早速読

んだ。先ほどの「家族看護学」公開講座に参加した時も参加する少し前に「看護技術」増刊号で家族看護学が特集されているのを見つけた。講師の先生の文献を読んだのもこの増刊号であった。

手術室に異動になり慣れてきた頃に小児の手術に興味を持ち、「小児看護」の連載—小児の臨床麻酔—を楽しみにするようになった。小児の手術に興味を持ちはじめた頃は自分で適当な本や雑誌が見つけれず小児系看護婦に推薦図書を教えてもらったりしていたが、目次コピーで連載を見つけてからはこちらも毎号楽しみにしていた。この新着雑誌の目次コピーは自分の専門分野以外の看護の動向を知る上でも役に立っている。

(3)ブラウジング

手術室にいた時、「オペネーシング」連載の「イラストで学ぶ麻酔看護の基礎知識」を毎号読んでいた。これはICUにいた頃人工心肺の特集を読んだ時に偶然この連載を見つけ、手術室勤務になった時にこれが役に立ったのである。また、その後透析室に異動になり「臨床看護」の透析看護特集を読んでいた時に「ICUにおける教育計画とOJT」という項目が目に入った。前にICUに勤務していたことや「教育」に興味を持っていたこともあって読んでみたが、「新人に向けられる質問の意味」や「現場での教育者の姿勢」について書かれており興味深かった。文献コピーをするために図書室へ行ったときなど目的とする雑誌以外のものも手に取ってみる。

「看護学雑誌」では「私が手術室看護に魅かれる理由」という文献を見つけたこともあった。

図書室に通うことは時間がかかることではあるが、そこから思いがけない新しい知識や文献を見つけることができる。このようなブラウジングも情報入手の手段としては効果的である。

4. 司書に望むこと

(1)連載記事のコピー

手術室にいた時にはすでに述べたように「オペレーティング」「小児看護」の連載を楽しみに読んでいたが、このうち、「オペレーティング」は職場に毎号届けられていたのをコピーすればよかった。しかし、「小児看護」のように中央図書室で管理している他の雑誌については発行される頃を見計らって図書室に行かなければならない。時には2度、3度と足を運ばなければならぬこともあった。このような雑誌の記事のコピーは一度司書の方に申し込んでおけば連載終了まで自動的にコピーをしていただければありがたいと思う。

(2)看護研究へのアドバイス

4年ほど前から「卒後2年目ナースの成長」というテーマで研究を行っている。しかし、当初は2年目ナースを対象とした研究が少なく文献の収集に苦労した。教育部長から3年目や中堅ナースを対象としたものでも研究内容が似たものを探すと、弟や妹が生まれた子どもの心理の本などを探してみてもどうかとアドバイスをもらった。このように研究をする上での文献収集のアドバイスをしていただきたい。

(3)部署図書の紹介

入院してこられる患者さんを見てみると、入院の原因となった疾患だけの方は少ない。今、私は現在透析室に勤務しているが、腎不全だけでなくその他にリウマチ、狭心症、多発性骨髄腫などを合併してる患者さんがいる。また、白内障手術や糖尿病による下肢切断手術を受ける患者さんもいる。手術が契機となって腎機能が悪化して透析導入となる患者さんもおられる。このような患者さんに対する看護ケアは透析看護の知識だけでは不十分で、このような時、各部署に置かれている本や雑誌のリストがあれば文献が手に入りやすく役に立つと思う。

(4)新着図書の紹介

毎月図書室には図書や雑誌が到着する。当院では月報で新着図書が紹介され、図書室にも新着図書の棚があって便利である。ぜひ

く言えば、更衣室前の新着雑誌の目次コピーに加えてまえがき添えての新着図書の案内をしてもらとうとありがたい。今は図書室へ行った折りに新着図書の棚を眺める程度であるが、勤務に行き帰りにこれらの前書きを読んだり、また本のタイトルを見るだけでも図書への興味が湧いてくると思う。

(5)司書の役割のアピール

この原稿を書きながら感じたことは看護婦は病院図書室の司書をうまく活用していないのではないかということである。看護婦が司書の役割をもっと理解する必要があると思うが、司書の方からも看護婦に近づいて自分たちの役割をアピールして欲しい。たとえば、院内看護研究発表会に参加して文献の使い方についてアドバイスして欲しいし、図書室で調べものをしている看護婦に「どのような情報が欲しいのか」と声をかけて欲しい。一度そういう経験を持ったスタッフが「司書の方に尋ねたら教えてくれる」と、他の人にアドバイスをしているのを何度か聞いたことがある。その他、看護婦の卒後教育プログラムでの講義などもお願いしたい。このような機会を通じて親しくなるうちに気軽に相談できるようになると思う。そして、看護の向上のために司書はこんなに応援できるのだということを知っていただきたいと思っている。

5. おわりに

以上、日頃の自分を振り返りながら原稿を書いた。司書の理解について間違っている点があればお許しいただきたいと思うとともに間違いを指摘していただきたい。

この原稿が一利用者の声として司書の方たちの参考になり、さらに看護の向上につながることにできれば幸いである。

引用文献

1. 山添美代、山崎茂明：看護研究のための文献検索ガイド 第2版、日本看護協会出版会、P. 43, 1995

参考文献

1. 山添美代、山崎茂明：看護研究のための文献検索ガイド 第2版、日本看護協会出版会、1995.
2. 桜井利江 上泉和子：ICUにおける教育計画の実施のOJT、臨床看護 21(8)：1235-1240, 1995.

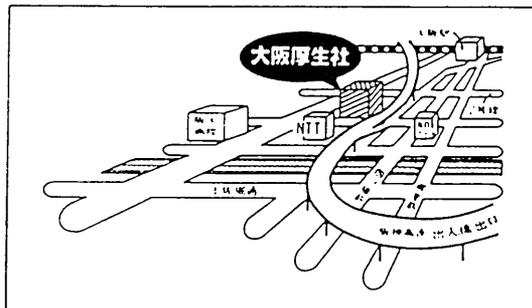
 **KOSEISHA**

Since 1946

■鮮度のいい情報を大量にストック
メデイカル情報発信基地!

月刊**医学情報** 医学関連記事を全国21紙より抜粋(年間購読料22,000円)

- TOKYO
☐ (03) 3294-0021
- YOKOHAMA
☐ (045) 243-0181
- KANAZAWA
☐ (0762) 64-0791
- SHIGA-IDA
☐ (0775) 48-2091
- TOYOAKE
☐ (0562) 93-1821
- KYOTO
☐ (075) 761-2181
- MORIGUCHI
☐ (06) 992-1051
- TAKATSUKI
☐ (0726) 83-1161
- KINDAI
☐ (0723) 66-0221
- WAKAYAMA
☐ (0734) 33-4751



株式会社 **厚生社** 本社 〒530 大阪市北区堂島3-2-7 ☎ (06) 451-3711 Fax. (06) 452-5080